

難治疾患共同研究拠点共同研究終了報告書

平成 25 年 3 月 1 日

東京医科歯科大学難治疾患研究所長 殿

申請者(代表者)

所属機関:千葉大学大学院医学研究院

職 名:准教授

氏 名:関直彦

下記により、共同研究の終了報告を致します。

記

研究題目	(和)癌遺伝子・癌抑制遺伝子として機能する microRNA とその標的遺伝子に存在するゲノム変異を指標とした発癌リスクのゲノム疫学研究 (英) Variants in microRNA and Cancer susceptibility		
研究領域番号 (研究領域から選択)	1	研究対象番号 (研究対象から選択)	A
研究領域	1. 難治疾患の病因・病態解明に関する基礎・応用研究 2. 難治疾患の診断・治療・予防法の開発に関する基礎・応用研究 3. 難治疾患研究に有用な解析技術・モデル生物の開発に関する基礎・応用研究		
研究対象	A. 悪性腫瘍の共同研究 B. 脳・神経系難治疾患の共同研究 C. 心・血管系難治疾患の共同研究 D. 運動器系難治疾患の共同研究 E. 免疫・感染系難治疾患の共同研究 F. 代謝系難治疾患の共同研究 G. その他の難治疾患の共同研究		
研究期間	平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日		
研究組織			
氏名	所属機関・部局等	職名	役割分担
関直彦 村松正明	千葉大学大学院医学研究院 東京医科歯科大学 難治疾患研究所	准教授 教授	分子生物学実験 ゲノム変異解析
難治疾患研究所共同研究対応教員	(共同研究をした教員名を記載) 村松正明		

研究成果

miRNA と発癌との機能的関連が明らかになって来ているが、実際のヒトの癌易罹患性との関連については、未だ不明な点が多い、そこで miRNA における遺伝子多型と悪性腫瘍の関連があるかどうかを調べた。すでに複数の悪性腫瘍との報告がなされている論文を調査し、そのうち再現性が良く悪性腫瘍と関連している rs2910164 (miR-146a) (J.Permuth-Wey et. al, 2011, Hong G., et al. 2010, Ryunosuke K, et al. 2011, Teng X., et al, 2008, Bin Z., et al. 2011) および rs11614913 (miR-196a2) (Young-Seoub Hong et. el, 2011, Chu H., et al. 2011, Feng W. et. al, 2012) を選択して検討した。対象は東京都長寿健康医療センター連続剖検例(n=1536)であり、全体としての悪性腫瘍の有無、および各種悪性腫瘍との相関を調べた。その結果、miR-196a2 の SNP が全体として悪性腫瘍を有する症例と有意な相関を認めた(p<0.05)。このことは miR-196a2 が複数の悪性腫瘍に共通な発癌機構に関わっている可能性が示唆された。

利用した難治疾患研究リソース
(○で囲む)

- 1) 疾患バイオリソース
- 2) 疾患モデル動物
- 3) 疾患オミックス○

使用した設備・資料・試料等

リアルタイム PCR 機

本研究成果に関連する論文発表状況

(本共同研究拠点経費による研究であることが謝辞に明示されている論文には*印を付けて下さい)

投稿準備中。